

# 浄心寺だより

発行  
浄心寺門信徒会

郵便番号714-0081  
笠岡市笠岡2065  
電話(0865)62-2623  
FAX(0865)62-2595  
振替01260-9-13760  
<http://joshinji.suki-ari.net/>

ご案内

## 降誕会

五月十二日(土) 十三時半より

仏教讃歌と

上方落語



## 「正信偈のこころ」(四)

諸仏に讃えられて(二)

信心に生きる人は「こうだいしょうげ廣大勝解の人」と諸仏から称讃されます。さらに諸仏は、この人を「ふんだりけ分陀利華」とたたえられるのです。分陀利華とは白蓮華のことです。「仏説観無量寿経」には、この華を念仏者にたとえて、

もし念仏するものがあるなら、まことにその人は白く清らかな蓮の花にたとえられる尊い人であると知るがよい。(浄土三部経)

といわれています。蓮華は泥沼の中から生えてきます。そして美しい花を咲かせます。その花は雪のように純白で人目をうばうほど美しいのです。すばらしいよい香りを放って人びとの心を引きつけます。

念仏者も、まさしく白蓮華と同じです。時代も社会もそしてそこに住む人たちの心は濁っていても、その中でうるわしい姿を現します。煩惱の泥沼の中にあつて、仏のさとりを開くべき身となります。それはあたかも、泥の中から生じ、泥の中に根を張って美しく咲きつづける白蓮華に似ています。

釈迦仏をはじめとして、あらゆる仏から、「こうだいしょうげ廣大勝解のひと」「白蓮華」とほめられることは、実に尊いことです。善導大師は、

もし念仏するものは、すなはちこれ人中の好人なり、人中の妙好人なり、人中の上上人なり、人中の希有人なり、人中の最勝人なり。

といわれました。

(『朗読法話集』Ⅱより)

# 春季彼岸会 永代経法要

## つとまる



厳しかった冬の寒さも和らぎ、春の兆しを感じられる三月二十一日、春季彼岸会、門信徒総追悼永代経法要が勤まりました。十三時半より阿弥陀経をお勤めました。講師は福山市神辺町、光行寺の苧屋光影師でした。先生には以前仏教講座の講師をお勤めいただき、岡山龍谷高校の先生でもあります。永代経ということの意味を中心に、お話しいたきました。法座参加者は寺からの通知で自分の意思で来られますが、もとは身近に亡くなられた方がご縁で来られます。その意味では、先立つた人々が私たちをこの場へと導いてくださったということができるでしょう。世の中のものに移ろいゆきます。そんななか、変わらぬ真実の教えを後世に残したいと、先人たちは

お経を伝えてきたのです。永代経法座というのは故人の導きによって私たちが真実の教えに出逢わせていただく場であります。

大阪のある住職が、法座の案内に記されたそうです。「お寺に参らなくてよい人。一、まだ生まれていない人。二、若返ったことのある人。三、一度も病気にかかったことのない人。四、もう死んでしまった人」。いずれも当てはまる人はいませんか？そうです、人間である以上、生老病死は逃れがたい身であります。

食って、稼いで、寝て、食っての繰り返しで一生を終えるほどむなしいことはありません。真実の教えを抛り所にしっかりと生きていつてほしい、という故人ないし仏さまの願いは常にはたき続けられてきています。そのお心をしっかりと受け止め、仏法を抛り所に生き抜きたいものです。身近な方を亡くされた方々を始め、多くのお参りがありました。



### 仏婦コーナー

## アソカの花

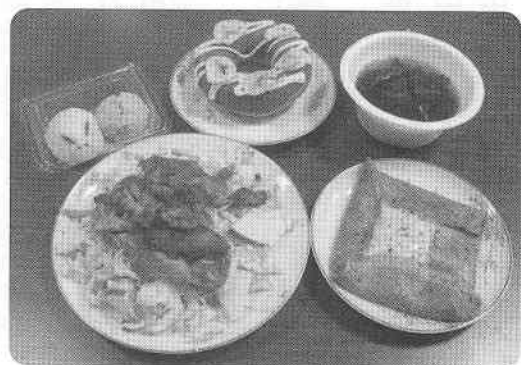


## 仏婦例会



三月十一日(日)、午後一時半より参加者四十五名で例会が開催されました。活動の経過報告並びに今後の行事が協議されました。また、ご法話は尾道市の法光寺季平博昭先生。楽しくお聴聞させていただきました。

### 第十三回 料理教室



三月二十日(金)、参加者七名、榊平先生のご指導で料理教室が開催されました。

### メニュー

- ◎米粉の卵包みガレット
  - ◎ポークジンジャー林檎風味
  - ◎わかめと桜エビの あったかスープ
  - ◎黄身しぐれ
  - ◎うさぎのじょうよ饅頭
  - ◎バナナケーキ
- たいへん上手に出来ました。

### ご案内

七月十七日(火) 一時半

## 虫干し法座

ご法話 呉市・西岸寺

長岡正信師

どうぞお参りください

門信徒の広場

寄島地区

幡多美貴夫さん

地区委員さん登場



寄島地区は笠岡市大島に隣接した町で、平成大合併で現在は浅口市に所属しています。

地区委員さんの交替

これまで地区委員さんとしてお世話をさせていただきました次の方が退任されました。永年の御苦勞に厚くお礼申し上げます。

【入江東】水原 博さん  
【入江西】水原 昭子さん

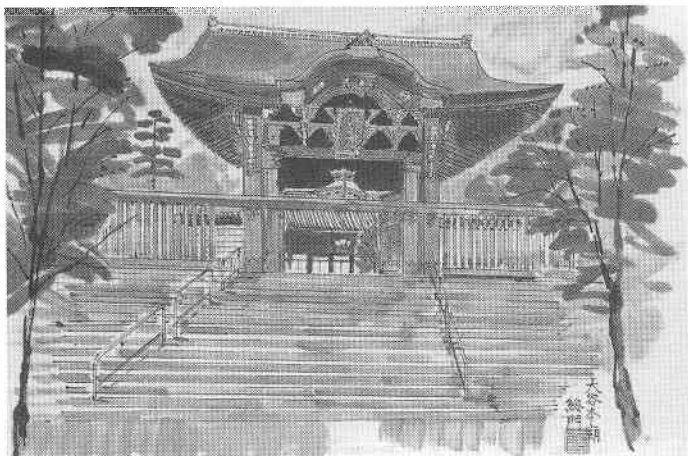
なお、新任の委員さんは

【入江東】水原 勘太さん  
【入江西】島内 喬二さん

どうか、よろしくお願ひいたします。

◆ 研修旅行 ◆

大谷本廟納骨と追悼法要  
山科別院参拝(蓮如上人ゆかりの寺院)



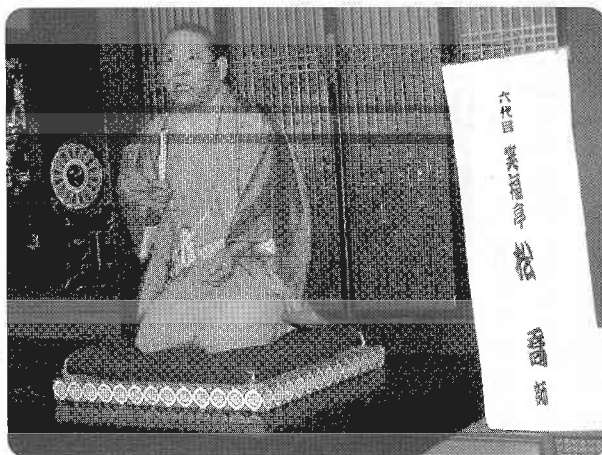
- ◎期 日 6月2日(土)
  - ◎参加費 7,000円
  - ◎お申込み 5月10日(木) までに浄心寺へ。
- ただし、定員になり次第締め切ります。  
※納骨の有無にかかわらず、お誘い合わせ、お参りいただきますようご案内申し上げます。

瀬戸内海に面し、昔から漁業の盛んな町で、名産の「寄島カキ」は全国ブランド商品として有名です。  
この町は天台宗の檀徒が大半で当寺の門徒はわずか5戸。他地区から移住された方ばかり。  
幡多さんは平成十七年から前任の多田羅さんの後を受けて地区委員としてお世話いただいています。

5月12日(土) 1時30分より

寄席 降誕会

六代目笑福亭松喬師をお迎えいたします。松喬師は古典落語を得意とした上方落語の中堅として早くからその力量が注目されていた実力派。昨年もその重厚味あふれる話芸で楽しませてくれました。



還浄(げんじょう)

月田	若林	松本	藤井	北村	赤木	田林	赤田	竹原	高草	野田	藤井	平田
道子	陽子	生子	米子	代輔	富子	省三	静子	啓節	啓治	節子	周二	文子
31	329	329	328	327	317	310	310	37	33	329	323	320
93	64	90	81	79	101	87	99	98	91	85	64	94
浅口市	浅口市	富岡	生江浜	大久保	宮地	横浜市	福山市	中央町	浜田	富岡	福山市	福山市



浄土真宗



教えと  
そのあゆみ

1、仏教とは  
どんな教えでしょうか(2)

伝道

仏陀となられた釈尊は、ベナレスの鹿野苑で、かつて苦行をともにした五人の従者に対して、最初の説法を行われました。

このとき、後にのべる四諦八正道の教えが説かれ、五人の従者はただちに釈尊に帰依して弟子となり、ここに仏(釈尊)・法(四諦の教え)・僧(五人の弟子)の三宝がそろったわけです。それから八十歳でこの世を去られるまでの四十五年間、釈尊はつねに各地をたずねまわって、人びとに教えを説き、王舎城の竹林精舎や舎衛城の祇園精舎のような立派なお寺も建てら



▲初転法輪像  
(サルナート出土、5世紀  
サルナート博物館蔵)

れて、仏陀の教えがひろまっていた。当時のインドでは、四姓とよぶ階級的な差別が存在したのですが、仏陀は人間の平等を主張されたので、釈尊の教団にあつては、身分の上下や貧富・男女を問わず、あらゆる階層の人びとが参加し、一味和合の美しい同朋思想が各地で生まれていったのです。

涅槃

円満な釈尊の人格は、敵にまわった人びとの憎悪も自然にやわらぎ釈尊に対する迫害といったものはほとんどなかったようです。しかし、晩年近く釈尊の血筋につながる従弟のデーヴァダッタ(提婆達多)が、若きアジャセ太子(阿闍世王)をそそのかして、王舎城の悲劇をひき起こしました。『観無量寿経』はこの王舎城の悲劇につらなる韋提希夫人

に対して説かれた教えであります。提婆の叛逆も釈尊の静かな心を乱すことはいきませんでした。かくて釈尊にもついに命尽きて、お

くれになる時がきました。八十歳の二月十五日、クシナガラ沙羅双樹のあいだに設けられた床に伏し、そこに集まった弟子や信者たち、ねんごろに教えを説いて、寂然とこの世を去られたのです。「では弟子らよ、別れを告げよう。諸行は無常である。怠りなく努めよ。」これが最後の言葉でした。なお、クシナガラは当時としてはたいへん辺りな寒村でした。このようにして釈尊は、死の直前まで一人でも多くの人を救いたいという念願のもとに生涯を伝道にささげられたのです。

かくて、仏陀がなくなられることを涅槃といいますが、わが国では昔から二月十五日を「涅槃会」と定めて、大聖の遺徳をしのんでいます。

**サマースクール**  
7月23日(月)、24日(火)  
泊2日

小学生のみんなきてね!!

「笠岡十名山  
神之峰に  
登ろう」



◎対象 小・中学生、保護者 (門信徒に限らず)

◎場所 報恩寺集合、解散

◎日時 五月十九日(土)

◎参加費 一人 一〇〇円 (保険料、弁当代込)

報恩寺(笠岡市金浦)から神之峰(ごうのみね、笠岡市有田)まで歩き、登ります。往復9キロほど。申込みは浄心寺まで。

◎締切り 五月十二日(土)

備中里組仏教青年部会主催

編集後記

風薫る今日この頃、門信徒の皆様方には、いかがお過ごしでしょうか。来る五月十二日には、宗祖降誕会法座が開催されます。

ご案内の浄心寺だより99号をお届けします。今回の法座も、上方落語ではお馴染みの「笑福亭松喬」さんを迎えての落語を拝聴します。どうぞお誘い合わせの上お参りください。(編集事務局)